侃斯達篤

巻二

ヤ4
1435
2

十4
1435
2

侃斯達篤卷之二

侍醫法眼　坪井良信良譯

其二　血液循環諸病

血液鬱積

彼此ノ部ノ脈管中、血液鬱積スルナリ、

人或ハ血液流通ヲ妨クルニ由テ發スル者ヲ血液鬱積ト稱シ、内外刺戟ニ由テ發スルヲ血液輻進ト稱シ、以テ之ヲ區別ス、然レトモ血液輻進ノ字ハ、疑義アルカ故ニ、之ヲ廢シ、唯血液鬱

91-2047

積ノ字ヲ用フルヲ可トス、但シ鬱積ト煥衝トハ自ラ別アリ、煥衝ハ必ス局部滋養失常ヲ兼ヌ、血液鬱積ハ此ノ如キ滋養失常ノ原基ヲ輸送スル者ニテ、煥衝ノ因ト云フヘシ、必ス之ニ前行ス、故ニ決シテ之ト混スル丁勿レ、血液鬱積シテ組織ノ滋養ヲ變スルニ至レハ、是レ既ニ鬱積ニ非ス、煥衝ニ轉スル者ナリ、

症候

一部ノ細脈管中、血液鬱積スレハ、其部赤色腫起ス、腫起スルト、鬱積スル血液ノ刺戟トニ由テ、病性感動ヲ發ス、疼痛是ナリ、其部ノ機能ハ或ハ全タカラス、或ハ廢止ス、近部動脈ノ動ハ大ニノ實ナリ、是レ血液鬱積シテ脈管ヲ流通スルノ量多キヲ以テ、脈管ノ中徑廣大トナルニ由ル所ナリ、局部機能障害ノ抵抗ニテ、脈管及ヒ神經系ノ中點ニ變動ヲ起シ、他部ニ交感諸症ヲ發ス、血液鬱積スル者、出血或ハ分泌增多スルニ由テ、消散スルアリ、又煥衝ニ陷ルアリ、

血液鬱積ノ發症ト、煥衝ノ發症トハ、辨別シ難ハサルヿ多シ、夫レ尋常煥衝ノ確兆トスル、赤

色、腫起、炎熱、疼痛ハ、鬱積ニ於テモ亦之ヲ發スレハナリ、但シ兼テ患部滋養常ヲ變スルハ、即チ煩衝ノ必見固有症ナリ、

内部器械ノ血液鬱積ト、煩衝トヲ鑒別スルハ最モ難キ所ナリ、唯其諸症ノ急速ナルヲ以テ纔ニ之ヲ察スルノミ、又血液鬱積ニ由テ發スル所ノ症候ト、相反スルノ因、即チ乏血ニ由テ發スル所ノ症候ト、相同シキ者アリ、例之譫妄、耳鳴、痙攣等ハ、腦ノ多血ニモ、乏血ニモ、之ヲ發ス、此症ノ辨別ハ、後ノ腦病条ニ於テ詳説スヘシ、

原因

鬱積ノ原因、(一)静脈血ノ還流ヲ丈フル器械性ノ者、(二)脈管ノ一部若クハ全部麻痺、(三)内外因ニ由ル局部刺戟ノ別アリ、

其一器械性ノ者、静脈血ノ心藏ニ還流スルヲ妨クル所以ノ者ヲ云フ、此障害ヲ為ス者、常ニ必ス器械性ナルニ非ス、何トナレハ静脈大幹ノ閉塞、又壓迫ニ由リ、又血液ヲ流通セシムルノ機能麻痺スルニ由リ、又脈管彈力ヲ失スルニ由リ、又

心病、肺病アルニ由テ、静脈血ノ循環ヲ妨ケ、以テ血液鬱積ヲ生スルヿアレハナリ、又器械性血液鬱積、筋ノ運動ヲ失スルニ由ル者アリ、抑モ筋ノ壓迫スルハ、静脈血流通ヲ催進スル所アリ、四肢ノ如シ、又血液自家ノ重力ニ由テ、鬱積ヲ生スルヿアリ血液ヲ循環セシムル所以ノ力減衰シテ、血液ノ重力ヲ制スルヿ能ハサル者是ナリ、例之高年ノ人、又慢性ノ疾病ニ由テ、脱力スル者、身體ノ低所、背ノ皮膚、肺臓、四肢ニ血液鬱積ス、則チ世稱スル所ノ虚性煩衝是ナリ、職業ノ為ニ止ムヿヲ得スノ、強テ兩脚ヲ下垂シ、血液ノ下部ニ流通スルヿ容易ナル者、又攝生、行狀、固形部ヲ衰弱セシムル者、織工ノ如キハ、下肢血液鬱積、静脈膨脹、腫瘍、及ヒ慢性難治ノ腫瘍ヲ生シ易シ、所謂虚性煩衝、一變シテ生活機能ノ區域ヲ脱シ、屍體鬱積トナルアリ、是レ解剖家ノ着目スヘキ要件ナリ、屍體鬱積ハ、唯其重力ノ法則ニ隨テ、身體ノ低下ノ部ニ鬱積スル者ナレハ、體ノ位置ヲ轉スレハ其部亦變スルナリ、輕重大小ハ、大ニ血質ニ由ル、故ニ死後血液溶崩稀薄ナル者、例之失

苟兒陪苦、腐敗病、又炭蒸氣ニ觸テ窒死スル者等ニ於テハ、其症盛ナリ、故ニ解剖ノ際、妄ニ之ヲ見テ以テ單ニ疾病ノ續症ナリト認ルヿ勿レ、又組織彈力ヲ脱失スレハ、滲出變シテ漏泄トナル、是ニ由テ啻ニ汎乙ノミナラス、血中ノ色分モ脈管ノ針眼ヨリ漏泄シテ、汎乙膜、又組織中、又實質中ニ瀦留シ、以テ死後汚血斑、蜂巣體内血液溢出等ヲ為スナリ、

屍體血液欝積ノ最モ多ク發スルノ部ハ、一外部皮膚、背、臀、腓腸等ナリ、赤色帶青、或ハ汚色ノ斑ヲ為ス、之ヲ死斑ト名ク、二肺藏後面下部、肋骨ニ接スル所、三腦膜ノ頭蓋骨隙ノ後面、四胃ノ低面、最モ垂下スル部、腸ノ最低ノ部、腸間膜脊椎ニ接スル ノ部、五肝藏ノ下面、是レ腸ヨリ升騰スルノ汚氣ニ由テ、暗色或ハ緑色トナル、屍狀敗血、又赤色ノ血液欝積スルノ部ハ、腦膜、胸膜、腹膜、心嚢ナリ、

器械性血液欝積ヲ生レ易キ部ハ、一其輸送スルノ脈管、閉塞セル靜脈ニ吻接スル部、二多血ノ部、例之肺、肝、脾、腸、面部、三脈管ノ衣膜弛緩スルノ部、

脾

血液鬱積スルノ部ハ、先ツ血液瀦留シテ循環セス、漸次ニ堆積シテ色ヲ變シ、腫起ス、血質固ヲリ變スルカ故ニ、其部忽チ暗色トナリ、血ノ水分速カニ分析シ、管外ニ滲出シ、鬱畜シテ腫瘍狀トナル、腫瘍ト水腫ハ、血液鬱積ノ續症ナリ、

水分ノミ管外ニ滲出スルニ非ス、脈管破裂スルニ至レハ、清血漏泄シ、出血ス、是レ血行障害甚シキ、又ハ其部ノ脈管弛緩スルニ由テ生ス、肺藏、直腸靜脈等ニ於テス、

人工ニテ器械性血液鬱積ヲ生スレハ、四肢ヲ綁紮スルカ如シ、內藏出血、吐血、咯血ヲ發ス、綁紮ノ主用ハ、四肢ニ血液流通ヲ增多スルニ非ス、却テ血液ノ心藏ニ還流スルヲ支障スルナリ、器械性緊紮法ニテ動脈ヲ壓迫スレハ、相反スルノ症ヲ發ス、

血液浸潤スルノ部ハ、其固性ヲ失ス、故ニ器械性血液鬱積スルノ部ハ、健康ノ部ヨリハ軟脆ニノ破裂シ易シ、夫ノ軟解ト稱スル者ハ、器械性血液鬱積ノ續症ノミ、軟解ハ其健康時ニ於テ組織柔

軟ナル部、肺、腦、脾等ニ於テ最モ顯著ナリ、

器械性血液鬱積ノ例、

一　縊死、窒息、喘息發作、卒仆ニ由テ、面色汚穢、眼目腫起、死後發斑、肺、心ノ右室、靜脈系血液充盈、心ノ左室、動脈空虛等、

二　門脈、及ヒ下行靜脈閉塞壓迫スルニ由テ、腸、腸間膜血液鬱積、或ハ出血ス、

三　妊娠ニ由ル者、

痔脈腫起、足部靜脈、膨脹、腫瘍、

四　心藏器械病ニ由ル者、

腸及ヒ四肢血液鬱積、

五　肺藏器械病、肺勞ニ由ル者、

痔脈腫起、

六　緊搾ニ由ル者、

膝紐、袴服、風領ニ由テ眼煩衝ヲ發ス、

其二麻痺性ノ者、多ク血部ノ脈管神經直チニ麻痺シ、或ハ全身ノ虛脱病ニ由テ、心藏、動脈、血液ヲ細脈管中ニ輸送シ、遂ニ靜脈ニ入ルノ機能ヲ失シ、脈管虛性血液鬱積ヲ生スレハ、血液細管ニ鬱畜シ、所謂虛性煩衝トナル、鬱積スルノ血液漸

次ニ變質シ、暗色、褐色トナリ、凝結シ、又遂ニ分析シテ、周圍ノ部ヲ破潰ス、

患部紫色、或ハ暗赤色、腫起スルノ部柔軟ニノ牢實ナラス、温度減少シ、或ハ增進シテ灼クカ如ク、疼痛微々、或ハ全ク疼痛ナシ、機能ヲ失シテ麻痺ス、抵抗亦衰弱ヲ兆ス、

此ノ如クニノ持久シ、或ハ頻發スレハ、脈管弛緩シ、延長シ、收縮力麻痺シ、血液ニ抵抗スルノ機能ヲ失ス、是レ肺臟、諸腺、粘液膜ノ急性血液鬱積ノ者、經久スレハ虚性鬱積ニ陷ル所以ナリ、古人所謂ル焮衝慢性期是ナリ、老年ニ及テ、脈管ノ機能、即チ血液運輸ノ力衰憊シ、兼テ心藏輸出ノ力減スレハ、心藏ヲ遠距スルノ部、手、足、鼻尖、腦等ニ於テ、一分ハ器械性、一分ハ麻痺性ノ血液鬱積ヲ生ス、血液大脈管中ニ凝結シ、遂ニ惡性腫瘍、寒壞疽、軟解ヲ生ス、

其三刺戟性血液鬱積、是レ内外刺戟ノ直チニ其部ニ感シ、或ハ他部ヨリ波及スルニ由ル者ナリ、

急性血液鬱積、皆必シモ疾病ニ屬スルニ非ス、

健康體ニモ之ヲ發スル者アリ、其疾病ニ屬スル者ハ、其部ノ鬱積非常ニ盛ナルナリ、天癸始テ至ルノ時ニ於テ、陰部ニ血液增多シ、生齒ノ時齒龈ニ鬱積シ、受胎ノ時ニ卵巣ニ於テシ、妊娠、經行間、子宮ニ鬱積スルカ如キ、一時ノ血液鬱積、内外刺戟ニ由テ發スル者、皆健康ニ屬ス、情意感動〔恥羞、憤怒等〕ニ由テ、面部紅ヲ潮シ、又寒暖變移ニ由ル者、又情慾發動、交接ニ由テ、陰莖勃起スル等、皆然リ、

急性血液鬱積ヲ生スル所以ノ理如何ハ、病理學家ノ從來講究スル所ナリ、是レ焮衝ヲ生スルノ原基ニノ、之ヲ治スル所以モ、亦之ヲ目的トスレハナリ、古來試驗スル所、其說一定ナラス、或ハ相反スル者アリ、今其要ナル者ヲ揭クヘシ、

急性血液鬱積、及ヒ其續症ヲ說クニ方テ、親シク試驗シ、顯微鏡ニテ視ル所ヲ記ス、獸類ノ透明ナル組織、〔兎耳、蝦蟆ノ浮泳膜、又舌等〕ヲ器械性損傷、舍密性刺戟、又高度ノ寒熱ニテ、焮衝ヲ起サシムレハ、其部ノ細動脈狹窄トナリ、心臟ノ血液ヲ輸送スルノ力、及ハサルカ故ニ、細管及ヒ靜脈ノ血

行遲滯シ、徐ク〻ニ進行シ、血體各〻相附着シ、遂ニ鬱畜シテ、細脈管ヲ延張シ、脈管延張スルヿ愈多ケレハ、血行愈遲滯シ、彼此徘徊シテ、遂ニ瀦留シ、是ニ於テ急性血液鬱積、變シテ瀦留トナリ、續症ヲ發ス、

古人普ク謂ク、細脈管固ヨリ縮張ノ機ヲ有ス、是レ急性血液鬱積ヲ起スノ原ナリト、此説ハビデル氏亦唱フル所ナレ氏、ワルトンヨ子ス氏、ブリユクケ氏、實驗ニ據テ其非ヲ知ル、細脈管ニハ收縮セシムルノ纖維ヲ具セサルカ故ニ、自家ノ機能ニテ縮張スルト云フハ信ス可ラス、近時ブリユク氏驗スル所左ノ如シ、其枝末ニ於テ、血液鬱積スルノ一動脈ヲ、精密ニ驗スルニ、幹ハ收縮シテ狹窄トナリ、枝末ハ血液鬱積シテ大ニ膨脹ス、鬱積盛ナル者ニ於テハ、四五時間ハ持久スルノ狀態ナリ、動脈狹窄トナルカ故ニ、流通スルノ血液ヲ障妨シ、血液ノ力、及ヒ量、減少シ、而ノ細脈管ニ入ルニ及テハ、比例スレハ大ナルカ故ニ、血行遲徐トナル、動脈枝ノ末梢、細脈管、靜脈ニハ、收縮スルノ纖維ナキカ故ニ、狹窄トナルヿナク、其容

常度ヨリ減縮スルヿナシ、且ツ輸送ノ力減シ、血行遲除トナルニ由テ、血液鬱畜スルヿ愈盛ナリ、血體ハ固ヨリ他液ヨリハ重キカ故ニ、運行最モ遲除ニノ、彼此徘徊シテ遂ニ沉澱ス、上ニ記スル所ノ動脈收縮ハ、久シク保持セスノ、速カニ弛縱シ、隨テ血行流利シテ、疾速トナル、可疑是ニ於テ細管及ヒ靜脈中、血液鬱積スル者、疎通ヲ得テ消散スルナリ、或ハ其障害物ヲ排除シ能ハサルモ、之ヲ增加スルヿナシ、何トナレハ血液能ク細管ヲ流通スルカ故ニ、自ラ閉塞ヲ開クニ足ルナリ、」

血液鬱積、及ヒ其續症ノ顯微鏡ニテ視ル所ノ發症ヲ說クニ、數般ノ考案アリ、古人多ク謂ク、燃衝ハ病機抵抗ニテ、血液ト神經機能トノ平均ヲ失フニ出ツト、然ルニ近世ニ及テ、ヘンレ氏亦此說ヲ唱フ、又引力ヲ以テ之ヲ說ク者アリ、ホーゲル氏、アリソン氏、ヨ子ス氏、ヘン子ツト氏等ヘンレ氏亦曰ク、燃衝性血液鬱積ハ、細脈管ノ神經麻痺スルニ由テ、脈管延張シ、血液瀦留スルナリト、但シ上ニ記スルノ顯微鏡ニテ視ル所ニテハ、脈管延張セス、却テ收縮スル者ナレハ、脈管ノ神經麻

痕ニテハ説クヿヲ得ス、又引力家ノ説ニ曰ク、脈管内面ト、血液トノ引力ニテ、血行漸ク遲徐トナリ、遂ニ全ク瀦留スト、ワルトンヨ子ス氏ハ、此二説ヲ併セ取ントス、但シ諸般ノ説ヲ詳記シ、之ヲ辨駁スルハ、方今ノ急務ニアラス、故ニ各其本書ニ就テ詳説ヲ見ルヘシ、今之ヲ揭ケス、次テ血液欝積ノ續症、所謂燃衝ヲ説クヘシ、

燃衝

上ニ記スルカ如ク、延張セル細脈管中、血液欝積スル者、遂ニ燃衝トナルヿアリ、此時赤色ノ血體ハ、進行遲徐トナリ、愈〻管中ニ欝積シ、相密接シテ、虚隙ヲ失シ、或ハ血行二列トナルヿアリ、是ニ於テ細管中、全ク赤色ノ血體ヲ充盈シ、稀液少ナク、血行愈〻遲滯シ、血體遂ニ柱狀ヲナシ、恰モ貨幣ヲ重疊スルカ如ク、暫ク徘徊往來シテ、遂ニ全ク休止ス、且ツ全管充盈スルカ故ニ、不整球狀ノ塊トナリ、各個ノ區域ヲ別ツヿナシ、

此諸症ノ外、更ニ脈衝ニ必見ノ症アリ、滲出是ナリ、延張セル細管中ニ、多量ノ血液充盈シテ、之ヲ運輸スル能ハス、遂ニ周圍ノ組織内ニ滲出ス、瀦留セル血體ノ色分ハ、溶解シテ、汎乙液ニ混シ、管外ニ滲出ス、細管彼此ノ部破裂シ、其液組織内ニ滲出シ、脈管ト組織ト相混同シテ、分界ヲ失フニ至ル、

ヘンレ氏曰ク、細管中血體密接スルト、瀦留スルトハ、滲出之カ因タリ、何トナレハ、血液水分ヲ失フカ故ニ、稠厚トナル、纖維質ト、卵白ト、増多スレハナリ、ヨ子ス氏ハ、血液ノ稠厚ナルヲ欝積ノ最原ナリトス、

今此諸症ヲ解剖學理ニテ論スレハ、夫レ脈衝ハ、血液欝積シ、次テ其部ノ滋養ヲ變スルナリ、故ニ之ヲ要スルニ、滋養常ヲ變スル者ナリ、滲出ハ滋養液ノ量ト質トヲ變スルナリ、ヒルシヨウ氏滋養ノ機ヲ失スルナリ、故ニ滋養ノ機ト、脈衝ノ機トハ、固ヨリ判然タル區域アルニ非スシテ、能ク相轉移スルナリ、夫ノ脈衝ノ解剖性變化、殊ニ滲出變性ハ後ニ詳説スヘケレハ、今先ツ上ニ記スル

諸症ヲ發スル所以ノ理ヲ說クヘシ、

炎衝症候

所謂ル炎衝四症、赤色、炎熱、腫起、疼痛ハ、唯外部ノ炎衝、目視、手觸レテ之ヲ知ルヘキ者ニ於テ云フノミ、但シ以テ炎衝ノ狀態ヲ察スルニ足ル、夫レ發泡膏ヲ貼シテ、發スル部ノ炎衝ハ、其始單純ノ血液鬱積ナレ𪜈漸次ニ滲出液ヲ生シ、表皮隆起スルニ至ル、今此四症ヲ各別ニ詳說スヘシ、

一赤色　組織赤色トナルハ、細管中ニ血液輻進スルヿ、增多ナルニ由リ、或ハ其瀦留シ、鬱積スルニ由リ、或ハ沟乙液ノ血ヲ混シテ赤色トナル者、管外ニ滲出シ、又ハ脈管破裂シテ清血組織中ニ漏泄スルニ由リ、或ハ血液脈管ノ新ニ發生スルニ由ル、是レ煦覆セル鳥卵ノ膜ニ於テ見ル所ノ如シ、故ニ赤色ニ鬱積性、滲出性、漏泄性、成形性ノ別アリ、而ノ炎衝赤色ヲ發スルニ數因アリテ、多クハ相合併スル者ナリ、

屍體ヲ解剖シテ、組織ノ炎衝赤色ヲ檢査スルヿ極テ難シ、其非常ニ赤色ナル者、一ハ血液ノ變性スルニ由テ發スルアリ、又生活時間發セシ所ノ

赤色、屍體ニテハ忽チ消散シテ、痕跡ヲ遺サヽレハナリ、例之咽喉熱衝ノ者、其生活時間ハ、血液鬱積盛ナリシニ、死後ハ喉頭ノ粘液膜、全ク白色トナリ、又羅斯、猩紅疹ノ皮膚赤色ナル者、死後直チニ消滅スル類ナリ、

熱衝赤色ヲ解剖シテ撿査スルニ、數種ノ別アリ、

一　分枝ノ者　是レ殊ニ大脈管ニ於テ然リ、故ニ唯前兆ナル者カ、或ハ熱衝ノ周圍ニ生ス、

二　網狀ノ者　是レ閉塞セル細脈管相錯綜シテ網狀ヲナス者ニテ、膜質ノ部ニ於テ之ヲ見ル、

三　點狀ノ者　細小ニヽ、各〻不同ノ斑點簇發ス、腦、粘液腺、假膜、汎乙膜ニ生ス、脈管ノ新生スル亦此ノ如ク點狀ヲナシ、漸ク線狀ノ新血道ヲ生スルナリ、

四　同等赤色ノ者　是レ血點、及ヒ脈管集合スルニ由リ、或ハ脈管破裂スルニ由ル者ナリ、組織弛緩ノ部、例之粘液膜ノ如キニ生シ易シ、

此ノ如ク赤色ニ數種アレヒ、相轉移シ、分枝ノ者網狀トナリ、網狀ノ者同等ニ轉ス、而ノ其相轉スルハ、病勢進歩スルナリ、又其患部ノ差異アルニ

由ル、腸ノ粘液膜、腦ニ於テハ點狀赤色ヲ發スルヲ常トス、眼膜ニハ網狀ヲ生ス、

赤色ノ深淺、亦數樣ノ別アリ、淡赤色ヨリ漸ク進テ各般ノ度ヲ經テ、遂ニ褐色、帶青色ニ至ル、脈管或ハ其部ノ組織中ニ、血液久シク瀦留スレハ、其色ヲ變シ、暗或ハ褐トナル、但シ血ノ性質、脈管ノ形狀、又其部固有ノ色、相異ナルカ故ニ、亦數般ノ別アリ、外部ニ發スル赤色ハ、其初起ニハ指ニテ之ヲ壓セハ消褪ス、又炎衝スルヿ愈久シケレハ、消散スルノ後、黃色或ハ帶褐黃ノ斑ヲ遺シ易シ、

是シ其組織中ニ漏泄セル色分ニ由ルナリ、

二 腫起　是シ亦炎衝ノ一傍症ト云ヘキノミ、必見ノ症ニ非ス、醫者宜シク速カニ腫起スルト、兼テ抵抗亢起ノ兆ヲ見ハ、則チ之ヲ徒ラニ看過スルヿ勿レ、腹部諸器ノ炎衝ハ、腫起ノ部大ナルヲ以テ之ニ觸レ、之ヲ按シ、以テ知ルヘシ、他ノ內部諸器ニ於テハ、疑似決シ難シ、唯近傍部ノ機能障害アルヲ以テ察スルノミ、

腫起スルノ因ハ、赤色ノ因ノ如ク、一樣ナラス、或ハ細管ノ充盈シ、膨脹スルニ由リ、或ハ組織ノ蜂

巢體中、又ハ空隙ニ、汎乙液滲出スルニ由リ、或ハ血液滲出、漏泄、鬱滯スルニ由リ或ハ之カ為ニ、其組織膨脹、肥厚トナルニ由ル、此諸症モ、亦相併セ來ルナリ、

其部ノ硬軟、血液ノ多寡、各別アルカ故ニ、腫起スル丨亦一樣ナラス、從來柔軟ニメ多血ノ部、粘液膜、脾、皮膚ハ、腫起シ易ク、血液滲出シ易シ、此部ハ脈管膨脹スルノ性アリテ、血液ヲ吸收スル丨盛ナルカ故ニ、腫起スル丨盛ナリ、之ニ反シテ、腱質、筋質、軟骨質ノ部ハ、堅硬ニメ乏血

ナルカ故ニ、妄ニ腫起セス、患者死スレハ、血液ノ鬱積スル者消散シ、細管空虛トナルヲ以テ炎衝ノ初期ニハ、死後速カニ消散スルノ理、又後期ニ於テモ、萎縮スルノ理ヲ知ルヘシ、患部ノ硬軟、亦一樣ナラス、初期ニハ多クハ硬固ニメ、抵抗盛ニ牽張ス、第二期ニ於テ血液滲出スレハ、其部漸ク柔軟トナリ、泥ノ如ク、之ヲ壓スニ牽張セス、而メ滲出ノ液凝固セサレハ、患部軟解シ、脆弱トナリ、硬骨ハ軟骨ノ如ク、角膜ハ軟解シ、膜質ハ近接スルノ部ト離解シ、腦質、肺、

脾等ハ化シテ泥ノ如シ、

煥衝スルノ部ハ、物質増多スルカ故ニ、必ス其重量ヲ増加ス、隨テ其異重ノ増加スルヿ亦知ルヘシ、ハハスセ氏曰ク、肺臓ハ健康時ニハ七弓、至十弓重アルニ、煥衝スレハ一斤半、乃至二斤重トナル、故ニ肺ノ異重ヲ百トスレハ、但シ健康人ノ肺ノ異重ヲ秤量スルハ能ハサル所ナリ、煥衝スレハ百十五、百十九トナルナリ、

又渾濁ナル血液竄透スルカ故ニ、膜質透明ノ部、其玲瓏ヲ失ス、汎乙膜、角膜、水晶液帯ノ如シ、

又煥衝ニ由テ生スル所ノ十全ノ變性ト稱スル者ハ、組織ノ溶解スルニテ、其部ノ全質變シテ、同質ノ物トナリ、各〻ノ組織潰爛シテ、形質ヲ失フニ至ル者ナリ、

三 疼痛 煥衝ニ發スル疼痛ハ、諸般ノ疼痛ノ如ク、神經機能ヲ失スルノ一症ナリ、知覺神經末梢ヨリ、感覺ノ中點ナル腦ニ傳搬スルニ由ル、而ノ其疼痛煥衝ニ兼發スル非常ノ感覺ト云フヲ勝レリトス、蓋シ必シモ疼痛アルニ非サレハナリ、

煥衝ノ各期ニ發見スレヒ、疼痛ナキ者亦之アリ、

但シ赤色、腫起等アリテ、自ラ熱衝タルヿヲ知ルヘシ、

疼痛ハ興奮ノ亢盛スルナリ、知覺神經ノ暴動ト云フヘシ、故ニ知覺神經、患害ヲ蒙ムルトキニノミ之ヲ發ス、此神經固ヨリ普ク全身ニ蔓延スルカ故ニ、疼痛ハ多ク發見スルノ症ナリ其部ノ神經機能、知覺ニ非サル一種ノ感覺ヲ具スルトキハ、隨テ疼痛ニ非サル、一異ノ熱衝症ヲ發ス、例之目ハ蓋明、耳ハ聽力敏捷トナルカ如シ、故ニ疼痛ナキモ熱衝生スル者タルヲ知ルヘシ、殊ニ他識ノ症ヲ發セス、唯機能ノ失宜ヲ以テ察スヘキノ部ニ於テ然リ、目ノ網膜、内耳、腦ノ如キ是ナリ、

組織中非常ノ狀態アレハ、必ス神經ニ於テモ、非常ノ運營ヲ兼發ス、而ノ疼痛ハ諸般ノ原因ヨリ發スル者ナレハ、熱衝ノ初起ハ、之ヲ決スルヿ難シ、血液多量ニ鬱積シ、温度大ニ增加シ、脈管ノ鼓動盛ナルニ由テ、敏捷ナル神經末稍之ニ感シ、炎熱灼クカ如ク、刺スカ如ク、刺衝性、鼓動性ノ疼痛ヲ發ス、又器械性ニテ神經末稍

ヲ障害スルヿアリ、欝積スル血液ノ壓迫ト、重力トニ由リ、近傍部ノ牽張シテ、部固ヨリ牽張斂縮スルニ由ル、患タシ、故ニ腱質ノ部ハ、疼痛極テ甚タシク、又之ヲ刺開スレハ忽チ輕快ヲ得ルナリ、又炎衝ノ初期、若クハ經過中ニ於テ、其部ニ流通シ、或ハ瀦留スルノ血液、又管外ニ滲出シ、或ハ漏泄スル者、性質ヲ變シテ、舍密法ニテ神經ヲ刺戟スルヿアリ、

炎衝疼痛ノ度、輕重、大小一ナラス、或ハ劇甚ニノ錐鑽スルカ如ク、或ハ輕微ニノ壓重ヲ覺エ、少シモ疼痛ナキカ如シ、又疼痛ニ兼テ鼓動ヲ感スルアリ、炎衝ノ近傍部ニ在ル動脈ノ搏動ニ由テ起ル所ナリ、此際患者、閉塞シ或ハ滲出液ニ由テ壓迫セル細脈管ニ於テ、動脈血ノ流通ヲ明カニ知ル、例之胸膜、指ノ動脈ニ於テ甚シキ鼓動ヲ感スルカ如シ、又或ハ心臓機能ノ亢起スルニ由ル者アリ、余嘗テ驗ス、腦炎衝ニ於テ、顳顬動脈鼓動甚シキ者アリ、疼痛ノ輕重ハ、患部ノ景況ニ隨フ、其部神經多ク、且ツ其神經感覺鋭敏ナレハ、疼痛極

テ劇シク、之ニ反スルノ部ハ、疼痛輕微ナリ、故ニ
瘋衝ノ疼痛ハ、諸般ノ因ニテ起ル所ノ患部神經
運營ヲ失スルノ多少ニ由ル、輕微ノ刺戟物、大疼
痛ヲ發スルアリ、交感シテ瘋衝部ヲ壓迫スル者
ハ、固ヨリ血液鬱積シテ牽張スルヲ、更ニ增加シ、
疼痛ヲ增多ス、然レトモ外ヨリ壓迫スル丁次序ア
リテ、平等ナレハ、鬱積スルノ血液ヲ能ク他部ニ
輸送スルニ足リテ、底面牢實ナル部ノ瘋衝ハ、適
宜ニ之ヲ壓迫スレハ、却テ疼痛ヲ緩解スル丁アア
リ、故ニバルホウル氏、ヘルペアウ氏ハ、其患部ノ
位置ニ應シテ、漸次ニ壓迫スルヲ消瘋ノ一法ト
スルノ說ヲ唱フ、

神經ハ疼痛ノ實體ナレハ、其機能ノ盛衰ニ由テ、
疼痛亦增減アリ、或ハ時ニ進退ス、其發作スル宵
間ニ始マリ、夜半劇度ノ極ニ至リ、曉ニ及テ退ク
ヲ常トス、

四　炎熱　瘋衝部ノ炎熱ハ、啻ニ患者自ラ之ヲ感
スルノミニ非ス、傍人亦其溫度ノ增進スルヲ知
ルヘシ、華氏ノ驗溫器ニテ測ルニ七度ニ至ル、恐誤刻、今姑從原文、溫ノ發揮スル溫素發生ノ速力亦盛ナリ、

是レ炊衝部ニ觸接スル水液ハ、速ニ蒸散シ、又冷物ハ忽チニ温トナルヲ以テ知ルヘシ、

温度ノ亢起スルヤ、愈遠隔スレハ、愈減少スレ𪜈、能ク周圍ノ部ニ達ス、故ニ之ニ近接スルノ部ハ、外部ヨリハ必ス温ナリ、

炎熱ノ増減ハ、必ス常ニ鬱積スル血液ノ進退ニ比準ス、又炊衝部溶崩ニ陷レハ、舍密法ニ隨テ、非常ノ熱度ヲ發スル𪜈アレ𪜈、是レ他ノ諸症溶崩ヲ兆スル者アルヲ以テ知ルヘシ、

今記スル所ノ所謂炊衝四症ハ、曾テ論スルカ如ク、必見ノ症ニ非ス、別ニ諸般ノ症アリ、或ハ却テ上ノ四症ヨリハ緊要トスル𪜈アリ、其最ナル者、

炊衝部機能障害

其部炊衝ニ由テ、甚シク健全ヲ失スレハ、必ス其機能ヲ變ス、而ノ各般ノ別アリ、是レ炊衝部、感覺常ヲ失シ、以テ發スルノ交感ニ出ル者ナリ、例之胃炊衝ニ暴吐ヲ發スルカ如シ、腎炊衝ハ嘔吐、睾丸收縮ヲ發シ、膀胱炊衝ハ小便窘迫ヲ發シ、喉頭粘液膜炊衝ハ、痙攣狀聲音ヲ發スル等、皆此類ナリ、又其部ノ機能大ニ障害セラレ、或ハ全ク廢止スルアリ、例之腦炊衝ニ於テ

ハ腦髓麻痺シ、胃瘀衝ニ於テハ消化失宜、肺瘀衝ニ於テハ聲音嘶啞スルカ如シ、

瘀衝血質　亦一大要件ナリ、而ノ諸家説ヲ異ニス、或ハ曰ク血上豚肉皮ヲ結フハ、瘀衝アルノ確徴ナリト、或ハ之ヲ非ナリトシテ、其正理ヲ説ク、抑モ古人誤ヲ傳テ、遂ニ惑溺スルニ至ルノ原ハ、後件ニアリ、瘀衝ノ血液性質ノミヲ見テ、他ノ諸症ト比考スルヿナク、又其諸症中ノ一、即豚肉皮ノミヲ以テ、偏固ニ血質ヲ説ントスルニ由ル、夫レ豚肉皮ハ、血餅ニ分拆シ、其上面ニ結フ所ノ白色纖維質ニ成ルノ膜ニメ、必シモ瘀衝ノ確兆ニハ非ス、顯著ナル瘀衝ニ於テ、之ヲ生セサル者アリ、ナスセ氏曰ク、豚肉皮ヲ生セサル者、患者四分ノ一ナリ、又之血萎黄病者ニ於テ、之ヲ見ルヿアリ、又妊娠中、屢刺絡スルノ後、虚性諸病、腐敗熱、水腫、饑餓ノ人、勞瘵ノ末期等ニ之ヲ見ルヿアリ、故ニ必シモ血中纖維質ノ増多ヲ決スルニ足ラス、放出セル血上ニハ、纖維質凝固スルノ前ニ、血體沉降スルノ時間アレハ、則チ豚肉皮ヲ生ス、但シ彼ノ纖維質ノ凝固スルハ、一種ノ變化ヲ得レハ

遲徐ナリ、又血體ハ相引攝凝著スルノ性アルカ故ニ、速カニ沉降シ、又其數大ニ減少スルキニモ然リ、凡ソ此等ノ際ニハ、凝固セル纖維質ノ上層ニハ、有色ノ血體ナク、或ハ之アルモ極テ少ナシ、是レ黄白色ナル所以ナリ、

レマク氏、ドンデルス氏、試驗スル所左ノ如シ、放血ニ生スル豚肉皮ハ、無色ノ血體、大ニ之ヲ補成スル者ナリ、此體ハ輕キカ故ニ、血體ノ上面ニ浮ヒ、又有色ノ血體ハ重クノ下面ニ沉降シ、之ヲ上面ニ推ス、而ノ此無色ノ血體ハ、放血スルノ度數ニ隨テ增多シ、甚シキニ至テハ、全血量ノ半ニ及フ〻アリ、尚白腫条ニ於テ詳説スヘシ、

ワトソン氏曰ク、蜱針ニテ出セル血ハ、決シテ瘀衝皮ヲ生スル〻ナシ、吸角ニテ出スノ血ニモ之ヲ生スル〻少ナリ、是レ親ク自體ニ於テ驗スル所ナリ、然ルニ瀉血スル者ハ、動脈血モ、靜脈血モ同シク之ヲ結フト、

今其豚肉皮ヲ生スル所以ノ理ヲ詳説スルハ要ナシトス、抑モ本文既ニ瘀衝ノ正證トハセ

サレハナリ、古人已ニ豚肉皮ニ真假ノ別アルヲ論ス、其真皮ハ厚サ一二歩、硬ク軟革ノ如ク、彈力アリテ、白色帯青、或ハ帯黄、不透明ノ片ナリ、而ノ血餅ニ凝著シ、相集引スルノ力大ナリ、故ニ試ニ其中點ヲ押セハ、周縁亦牽縮ス、又其假皮ト稱スル者ハ、軟ニノ粘滑膠狀ノ片ナリ、彈力ナクノ透明ナリ、諸般ノ色ヲ帯ヒ、中點ヲ押スモ、周縁牽縮スルヿナシ、且ツ血餅ト離レ易シ、此區別ハ纎維質凝收ノ多少ニ由ル所ナリ、假性ノ者ニ於テハ、血ノ汎乙液未タ全ク分

拆シ盡サルナリ、故ニ假皮ヲ生スルハ、又以テ虚性病ニ於テ、血中纎維質減少スルヲ證スルニ足ル、

瘢衝病者ノ血液ハ、豚肉皮ヲ結ノノ性アルノ外、更ニ他性アリテ、以テ瘢衝血タルヲ證スヘシ、他性トハ、則チ血ノ異重、凝固スルヿ遲徐、纎維質ノ比例多キ、硬ク凝結スル等是ナリ、然レトモ瘢衝ノ理ヲ説クニ、近世ノ舍密家ノ説ニ據ルキハ、大ニ異ナル所アリ、纎維質ノ増多スルハ、必見ノ症ナレトモ、是レ唯瘢衝ノ部廣大、且ツ熱ヲ兼ル者ニ於

テノミ然リ、又固ヨリ多血ナルカ、機能緊要ナルニ由テ、生活保存ニ必須ノ部、例之肺汎乙膜、肝粘液膜等ノ煩衝ハ、血ノ煩衝性ヲ生シ易シ、抑モ全身諸器交感シテ熱ヲ發スルニ非サレハ、能ハサレハナリ、肺煩衝、及ヒ急性僂麻質ニ於テハ、血中纖維質大ニ増加スルナリ、

煩衝ノ局部原因ハ、纖維質ヲ増多スルノ最原ナリ、ラトウル氏、コリグノン氏、刺戟物ヲ用ヒテ強テ胸膜ニ煩衝ヲ生シ、以テ血質ノ變化ヲ試ミタリ、アンドラル氏ノ説ニ據レハ、凡テ煩衝

熱ノ初起ハ血中纖維質増多スルト同時ナリト、而ノ其證ヲ示スニ、僂麻質煩衝熱ノ初期、既ニ纖維質増多スルヲ以テス、ヘンレ氏ハ、インニング氏ノ説ニ據リテ曰ク、煩衝患者、纖維質ノ増多スルハ、始テ惡寒ヲ發スルヤ、早ク既ニ見ル所ナリ、又妊婦、分娩前ニ、纖維質ノ増多スルハ、煩衝ニモ、熱ニモ由ルニ非スト、

總テ血液ノ煩衝性ヲ檢査スルハ醫者靜脈ヨリ放出スルノ血ニテハ能ハサル所ニノ、血液全量ノ變異ヲ察スヘキ者ノミ、患部局所ノ景況ヲ知

ルヘキニ非ス、但シ以テ全身抵抗ノ景況、又貴要部ノ大患タルヲ知ルヘシ、故ニ之ヲ知ルハ、實ニ醫家ノ要務ナリ、

原因相異、部位各別ナルカ故ニ、瘧衝ノ兆候、亦一様ナラス、其各部症ハ、各病条下ニ記スヘシ、

瘧衝ニ發スル全身症、

夫レ各箇器械ハ、全身ニ相係累スル者ナレハ、一部ニ刺戟アリテ失常スレハ必ス之ヲ他部ニ及ボシ、相感スルヿ、恰モ石ヲ水中ニ投スレハ、全水盡ク波動ヲ生スルヿアルニ同シ、此ノ如ク變異ヲ受クルノ部、又之ヲ他部ニ傳與シ、一ニハ之ヲ原患ノ部ニ反送ス、此抵抗ヲ總稱シテ、全身ノ抵抗ト云ヒ、又續發全身症ト云フ、之ヲ傳搬スル所以ノ媒ハ、血液ナリ、神經ナリ、知覺性神經纎維ノ傳搬力ナリ、

抵抗ノ最モ常ニ發スル症ハ、熱ナリ、而ノ其劇度ハ各差等アリ、脈管系ノ全部抵抗ヲ發スレハ、瘧衝熱ヲ發ス、抵抗適度ナレハ、微熱ヲ發ス、甲症ノ徴ハ、大惡寒、次テ瞀留スル炎熱ヲ發シ、脈大實、疾、數、諸排泄乾燥、小便赤色、炎熱ニノ量少ナシ、諸症

纔カニ減退スルモ、熱勢持久シ、諸症輕微ナレヒ、熱ノ苦悶甚シク、或ハ熱勢却テ虚性ヲ顯ハスアリ、則チ脈小ニノ壓迫、神思鬱重、面色滲澹、舌乾燥、下肢冷等ナリ、故ニ真ノ煩衝ニハ、全身抵抗一時虚性症ヲ發スルアリ、抵抗ハ熱ヲ發スルノミニ非ス、患部、其人ノ體質、外氣ノ變異、偶然傍來ノ因等ニ由テ、同一ノ煩衝ヲ發スヘキ因ニ由ル者モ、諸般ノ交感ヲ為シ、尋常煩衝熱ノ性ト、大ニ相異ナル者アリ、

或ハ熱先ツ發シテ後煩衝ヲ生スルアリ、此際

ノ煩衝ハ、熱ノ續症ニテ、熱ノ因ニ非ス、人或ハ此説ヲ非ナリトス曰ク、内部ノ煩衝ハ、隱伏スル者ナリ、故ニ先ツ熱ヲ發スルト云フハ、臆斷ニ出ツト、實ニ或ハ然ル者アリト雖、悉皆然ルニ非ス、之ヲ實驗ニ徵スルニ、腐敗熱ニ發スル煩衝是ナリ、

抵抗ノ强弱、性情、後件ニ由ル、

一　煩衝部ト、全身トノ關係、

其部、血液循環ニ必須ナルキハ、例之肺、心ナレハ熱必ス極テ劇シクノ急性ナリ、然レヒ肺煩衝ニ

於テ、患部廣大ナレハ、血行丈障セラレ、隨テ全身衰弱シ、殊ニ腦ニ於テ盛ナリ、是ニ於テ熱勢虚性トナル、又胃、腸、及腹膜熱衝ハ、屢虚性熱ヲ發ス、又滲出液、膿汁等ノ汚液、血中ニ混和シ、之ヲ敗壞スレハ、其熱衝亦然リ、神經多キ部、又神經ニ須要ナル部、五官、膜質部、腦、ニ於テハ、神經症ヲ發ス、

二 體質

多血、强壯、彈力盛ナル人ニ於テハ、抵抗熱衝性ナリ、虚弱ニシテ神經感覺鋭敏ナル人ハ、熱衝ヲ發スレハ諸般ノ交感症ヲ發ス、

三 流行病性、地方病性、

是ニ由テ各質ノ人、齊シク彈力强盛、或ハ微弱、又刺衝機增多、或ハ減少シ、抵抗自ラ別アリ、北地、冬時、春時等ニハ、最モ熱衝性ヲ為ス、

四 熱衝ノ輕重、大小、又刺戟物ノ全身ニ感スルノ度、

今夫レ交感運動ノ幾何ハ、人身固有ノ良能治力ノ機能ニ起ル者タルヲ說ントス、此疑團ヲ解カントスルニ、其事廣大幽微ニシテ、能ク人智ノ達スル所ニ非ス、故ニ余唯後件ヲ揭ント

ス、夫レ人身各般ノ機能、相合シテ以テ一身ヲ保存セントスルノ一大目的ヲ為スノミ、而ノ各部固有ノ機能ハ、其平均ヲ失スルヿアルヿニモ、尚持續スル者ナリ、疾病ノ時ト雖、健康時ニ異ナルノ一別力ヲ發スル者ニ非ス、發スル所ノ抵抗モ、固ヨリ健康時ニ異ナルノ法則アルニ非ス、則チ失常ヲ復治スルノ媒介タルノミ、萬病皆然リ、然レモ或ハ疾病ノ外容ヲ大トナスヿアリ、病時ノ治力ト、平時ノ生力ト、固ヨリ同一カニノ、人身固有ノ營養力ナルノミ、

炎衝區域、又廣袤、各種ノ炎衝ニ區域アリ、又位置アリ、又能ク蔓延シテ他部ニ達ス、

炎衝ヲ發スルノ部ハ、多クハ刺戟物直チニ觸レ接スルノ一部局ナリ、創傷ノ部、火傷ノ部等、又炎衝ヲ發スルノ刺戟物、一局部ヲ畫セスノ、全身ニ普達スレハ、其最モ炎衝ヲ發シ易キノ部アリテ、之ニ感スルヿ盛ニノ、炎衝ノ部トナル、其部感覺鋭敏ナルアリ、脈管多キアリ、之ヲ炎衝シ易キノ部ト稱ス、例之肺ノ下

炎衝原因

裂、胃ノ上邊凹ム所、胃底、肝ノ下面、腹膜ノ鼠蹊部ナリ、從來ノ疾病、或ハ變異アルニ由テ、其部大ニ炎衝シ易キ者アリ、結節ヲ生スルノ肝尖ノ如シ、

炎衝ノ區域、大小、自ラ別アリ、

區域ヲ測ルニ、表面ノ大小ニ由リ、或ハ深淺ニ由ル、其部ノ組織相同シキアリ、相異ナルアリ、近接スルアリ、離隔スルアリ、

表面ニ蔓延スルハ、膜質炎衝ナリ、深所ニ達スルハ、巴連舎麻質ノ炎衝ナリ、膜質炎衝ハ、多クハ患部ニ膿狀粘液、膿狀沟乙、凝固性ノ纖維質ヲ滲出ス、其粘液膜ニ發スル者ハ、之ヲ聖京偪性炎衝ト稱ス、又巴連舎麻質ノ炎衝ハ、其質内ニ生シ、海綿體ヲ消滅シ、又其質内ニ浸透シ、腫瘍硬結ヲ生ス、其組織ト脈管トハ、疾病ノ舍トル所ナリ、而ノ必スシモ、近接ノ部ニノミ交感連及スル者ニ非ス、遠隔ノ部ニ及フ事多シ、例之腸ノ粘液膜炎衝ハ、呼吸器ニ及ヒ、腹膜炎衝ハ胸膜ニ感スルカ如シ、但シ炎衝ノ蔓延スルハ、最モ原因ト抵抗トニ因ル所ナリ、

定類熱衝、又敗血熱衝、

凡ソ一身萬機、健全常ヲ得ル所以ハ、之ヲ滋養スルノ血液、健全ナルニ由ルカ故ニ、凡ソ血液ヲ變異スル所以ノ諸病、血液調和疾患、敗血、ハ、必ス細脈管ヲ侵シ、排泄ト滋養トノ兩要機ヲ變異スルナリ、此變異アレハ、局部滋養ヲ失ス、形質ヲ變シテ熱衝ヲ生ス、故ニ敗血熱衝、又定類熱衝ト稱スル者ハ、滋養機ノ變ニシテ、必スシモ生力亢起ノ續症ナリト思フヿ勿レ、多クハ急性ニノ、熱衝性諸症ヲ發シ、全身活潑ナル抵抗ヲ起ス、然レ𪜈又

此ノ如クナラサル者屢之アリ、例之失苟兒陪苦性熱衝、神經聖京倔性熱衝、腺毒性熱衝是ナリ、

定類性熱衝ノ固有ハ、血中膽汁質、或ハ傳染毒ヲ混シ、一種ノ性ヲ具ス、但シ舍密法ヲ以テ之ヲ驗スルモ、其必然ノ性ヲ檢査スルヿ極テ少ナリ、此敗血ハ、各箇ノ器械ニ於テ作用ヲ發現シ、則チ其滋養ヲ變異ス、是ニ於テ腺毒ハ必ス腺熱衝ヲ生シ、痘毒ハ皮膚ニ發見シ、痛風毒ハ關節ニ發ス、唯各自ノ部ノミ其各自ノ毒ヲ感スルニ由ル、夫レ血液各種ノ變性ハ、患部ノ神經ニ各種ノ運營ヲ

起サシメ、次テ生スル所ノ熱衝、或ハ疼痛アルヿナク、或ハ劇甚ノ疼痛ヲ發ス、〔僂麻質痛、痛風痛〕或ハ交感諸症ヲ誘發ス、

定類熱衝、各個固有ノ經過長短一ナラス、全ク解ス可ラサル者アリ、又其終末各〻固有ノ定則アリ、或ハ滲出、硬結、或ハ膿化、或ハ寒壞疽ニ陷ルアリ、而メ其經過ノ期ハ、全ク熱衝ノ性情强弱ヲ以テ預メ知ル可キニ非ス、

血液ノ調和、各個固有ノ異變アル故ニ、各〻相異ナルノ熱衝ヲ生シ、滲出液亦一異性ヲ具シ、膿汁自ラ固有ノ性アリ、〔黴毒、痘瘡〕全身疾患ト熱衝ト相合シ、熱衝更ニ急性トナリ、蔓延シ易ク、隨テ熱衝ノ經過ヲ變シ、或ハ急性、或ハ慢性ナリ、

血液調和數般ノ差異アルカ如ク、隨テ熱衝亦數般ノ區別アリ、何トナレハ、血液各種ノ變アレハ、必ス滋養ノ機ヲ一變セシムレハナリ、例之膽汁毒、神經聖京倔、腺毒、黴毒、失茍兒陪苦ハ、必ス膽汁性、神經聖京倔性、腺毒性、黴毒性、失茍兒陪苦性ノ熱衝ヲ發スルカ如シ、

熱衝ノ本態、

炊衝ノ原基滋養ノ原基、亦同シ、ハ神經ナリ、血液ナリ、此兩個ノ機能ニ由テ、則チ炊衝ヲ生ス、炊衝ノ運營ハ、殊ニ其一ニ由テ生ス、

一 神經刺衝、器械性ナルモ、舍密性ナルモ、一部ノ神經ヲ刺戟スレハ、直チニ其部ニノミ、若クハ脈管神經ニ交感シ、細脈管中血液鬱積ヲ生シ、多血、或ハ炊衝ヲ生ス、

二 神經麻痺、殊ニ知覺神經麻痺スレハ、脈管神經須要ノ機能ヲ失シ、血液凝滞シ、多血トナリ、滋養ヲ變ス、故ニ第五對神經ヲ割ケハ、眼炊衝ヲ生シ、胯神經ヲ横斷スレハ脚炊衝ヲ生ス、又手足麻痺スレハ炊衝ヲ生シ、脊髓損傷、又ハ疾患アレハ、腎、膀胱炊衝ヲ生ス、神經聖京偪炊衝亦此類ナリ、

三 血液、血液脈管ヲ閉塞スレハ、則チ多血、又炊衝ヲ生ス、之ヲ試驗スルニハ、靜脈中ニ粘滑液、護謨水、或ハ血體ヨリハ大ナル球ヲ含ムノ馬鈴薯粉漿、水銀、又動物ノ血ヲ注入シテ、以テ炊衝ヲ生スルノ狀態ヲ檢査スヘシ、又疾病ニ由テ、血中凝固性、纖維質、卵白質、增多シ、細管中

ノ循環流利セス、或ハ全ク休止スルニ至ル、

四 又汚敗ノ血液中ニハ、刺戟性アリテ、脈管神經ヲ刺戟シ、以テ熱衝ヲ誘起スルアリ、

熱衝ノ素因ト遠因トヲ説クニ、治療家ノ考フル所ト、解剖家説ク所ト、自ラ別アリ、治療家稱スル所ノ熱衝ハ、生力亢起、抵抗盛ナル者ニテ、固ヨリ多血ナルノ部ニ根據ス、此ノ如キ熱衝ノ素因、左ノ如シ、

一 少壯ノ年齡、男子、

二 多血ニメ生力抵抗盛ナル人、

三 雰氣ノ變異ニ由テ、生力ヲ亢起スルアリ、其時ノ長短、地ノ廣狹ニ隨テ、流行病性、地方病性ノ別アリ、其最モ顯著ナル者ハ、乾燥、沍寒、北風、東北風連吹、高燥ノ地ハ熱衝ヲ發シ易シ、

四 其部ノ機能、平時ニ於テ、固ヨリ既ニ所謂ル熱衝ニ類似スル者、呼吸器ニ於テハ、冬時、春時毎ニ、機能亢起スルナリ、腹部諸臟ハ、夏日ニ機能亢盛ス、凡ソ間歇發作スルノ諸病、亦此ノ如シ、經行中、妊娠中、產後ハ、子宮諸病ヲ發シ易ク、哺乳時間ハ胸部病ヲ發シ易シ、

滋養失宜ハ、解剖家ニテハ炎衝ノ本性ナリトス、實ニ所謂炎衝ノ部ニ生ス、生力ノ亢起ト相并ス者ナリ、然レモ決シテ缺ク可ラサルノ要件ニ非ス、若シ夫レ滋養失宜ヲ以テ、炎衝ノ本性ヲ説クニ足レリトセハ、内外諸因ニ由テ、組織ノ滋養機能ヲ妨クル者アレハ、炎衝性ナキ所ニモ、能ク炎衝ヲ生スヘク、唯刺戟ノ劇シキ者ヲ要スルナルヘシ、

炎衝刺戟ニ器械性、骨質、異物、損傷、腫瘍、關節頭壓迫等、舍密性毒物、酸類、灰鹽、有機性炎熱、寒冷、温度急轉ノ別アリ、又諸部ノ交感機、桔槔機、又交感抵抗ニ由ル、一眼炎衝、他眼ニ及ヒ、耳炎衝、睾丸炎衝、左右相感ス、又病毒轉移、敗血、定類毒ニ由テ、各部ニ炎衝ヲ發スルアリ、今此諸般ノ法ヲ以テ炎衝區別ノ標的トスルニハ、外因炎衝ト、内因炎衝トヲ別ツヘシ、而ノ内因炎衝ニ、桔槔機、交感機、病毒轉移、敗血性ノ別アリ、

凡ソ全身諸部、皆齊シク炎衝ヲ發スル者ニ非ス、

一其機能ト部位トニ由テ、炎衝ノ原因ニ接シ易ク、隨テ之ニ感スルヿ多キ者アリ、故ニ外部ニハ

燃衝ヲ發スル丁多シ、(二)血液及ヒ脈管多キ部ハ燃衝ヲ發シ易シ、故ニ今燃衝ヲ發スルノ難易、多少ノ次序ヲ列スレハ、蜂巣體、外部皮膚、粘液膜、沟乙膜、肺、肝、及ヒ他ノ巴連舎麻質ノ内臓、其機能ニ隨フ次テ諸筋、大脈管、神經、神經膜、最モ稀ナルハ腱、靱帯、軟骨、硬骨ナリ、(三)既ニ疾患アルノ部、溶崩ニ陥ルノ部、例之肺結節ノ如シ、(四)曾テ燃衝、或ハ多血ニ罹レルアルノ部ハ最モ燃衝ヲ發シ易シ、

侃斯達篤卷之二終

初台樓梓

存誠林先生藏板

泰西醫方二十四脈表　一枚摺

侍醫法眼信良坪井先生譯
侃斯達篤氏内科書　全一百八卷

侍醫法眼信良坪井先生譯
新藥百品考　初編二冊　二編二冊　全四冊

佐倉佐藤舜海先生譯
斯篤魯默兒砲痍論　全二冊

佐倉佐藤舜海先生譯
外科醫法　内編十五冊　外編廿二冊　全三十七冊

越中佐渡三良先生著
和蘭藥性歌　全二冊

米澤 上井芳洲先生譯
醫療新書　全三十冊

倉次元意先生譯
眼科摘要　全部九冊　近刻

時醫法眼松本先生藏板
解剖羅甸語加類多　骨部

山内氏藏板
西洋風土入漢字和譯附　英語可笛多

發兌書林　英蘭堂　東都大門通難波町　嶋村屋利助